

明和八年銘石造狛犬



〔指定年月日〕 平成二五年二月一三日
〔種 別〕 有形文化財（彫刻）
〔名 称〕 明和八年銘石造狛犬
〔点 数〕 一对
〔所有者等〕 大宮八幡宮
〔所在地等〕 大宮二―三―一

明和八年銘石造狛犬

この狛犬一対は、もとは本殿前に安置されていたが、社殿の改修工事の伴い、昭和四〇年（一九六五）に本殿南側の境内末社（現若宮八幡神社・白幡宮・御嶽榛名神社合殿）前に移された。材質は安山岩で、社殿に向かって右に阿形（あぎよう）像左に吽形（うんぎよう）像が対向式に配置している。

阿形像は高さ五三・〇cm、幅二一・五cmであり、吽形像は高さ五二・〇cm、幅二一・七cm。両像とも顔の表情のほかはほぼ同じ寸法で造られているものの、わずかに吽形像の顔と体軀の幅が大きめである。両像の台座は、高さ四・〇cm、幅二一・〇cm、奥行四〇・五cmと同じ寸法で造られ、台石上段に彫られた溝にはめ込まれている。

台石は三段からなり、阿・吽両像とも、上段正面に「奉獻」、裏面に「明和八年辛卯年 冬十一月吉日 願主岩崎所左衛門」との銘が刻まれており、奉納された年（一七七二）と願主の名を確認することができる。

阿・吽両像とも、前肢を突っ張るように立て、体軀を後ろに引いた緊張感のある姿勢をしており、やや豊かな体軀をしている。頭部の流毛・巻毛ともに大きめで、尾部背面にも巻毛が見られ、その上部は五本に分かれている。このようにやや装飾性が進んでいるが、全体の表現は温和にまとめられている。江戸時代後期の狛犬像は技巧性が進んで強い装飾性が見られ、唐獅子と呼ばれるのにふさわしいのに対し、この狛犬像は、古式を

【文化財所在地】



伝えた作例といえる。この狛犬は、屋外に安置されるものではなく、上高井戸天神社の狛犬と並んで区内で最も古く、近世中期の狛犬の特色を示すものとして貴重である。また、同時期のこの地域の文化・社会組織などを物語る資料としても貴重である。